

令和2年度年間指導計画を見直す際の参考資料

<保健体育>

○臨時休業や感染拡大の防止を踏まえ、標準時数を減らし22週の授業日数で指導計画を見直す。
(保健体育は30%カット)

◎限られた時間の中でも、生徒が安全に(感染拡大防止も含む)楽しく学習に取り組み、学習成果を実感できるよう配慮する。

◎実施する単元については、まとまった時間を取り、評価計画と合わせて指導内容を見直す。

○教育課程編成の際の留意点

・2年間の内容のまとまりを踏まえ、計画を見直す。

(小1・2年、小3・4年、小5・6年、中1・2年、中3・高1)

※中学2年生であれば、中学1年生で行った内容は、行わない方法も考えられる。

※2年間のまとまりの中で、履修漏れがないように注意する。

・3密を避けることが難しい単元は、実施時期を後半にしたり、次年度の計画に変更したりする。

※中学2年生のように、次年度の計画に変更することができない(昨年度の実施がなく履修漏れが生じる場合)時など、資料とを活用し座学として学習を行うことも考えられる。

・保健分野については、計画通り実施する。

<中学校第1学年における領域別実施割合の例>※今年度未実施の場合は、令和3年度に必ず実施することになります。

	領域・分野	時数	実施時数	カット時数	実施割合(%)	備考
必修	A 体づくり運動	10	10	0	100	
必修	B 器械運動	9	0	-9	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	C 陸上競技	17	17	0	100	
必修	D 水泳	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	G ダンス	9	9	0	100	
必修	E 球技	26	20	-6	77	
必修	F 武道	9	0	-9	0	※組み合ったり、対面したりする活動が多い。
必修	H 体育理論	3	3	0	100	
必修	保健分野	14	14	0	100	
	合計時数	105	73	-32	70	

<中学校第2学年における領域別実施割合の例>※1年時に全ての領域・分野を実施している場合の例になります。

	領域・分野	時数	実施時数	カット時数	実施割合(%)	備考
必修	A 体づくり運動	7	7	0	100	
必修	B 器械運動	8	0	-8	0	※用具等の消毒対応が難しい。
必修	C 陸上競技	16	16	0	100	
必修	D 水泳	8	0	-8	0	※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
必修	G ダンス	9	9	0	100	
必修	E 球技	26	19	-7	73	
必修	F 武道	9	0	-9	0	※組み合ったり、対面したりする活動が多い。
必修	H 体育理論	3	3	0	100	
必修	保健分野	19	19	0	100	
	合計時数	105	73	-32	70	

<中学校第3学年における領域別実施割合の例>

	領域・分野	時数	実施時数	カット時数	実施割合(%)	備考
必修	A 体づくり運動	8	8	0	100	
1領域以上	B 器械運動	32	0	-10	69	※用具等の消毒対応が難しい。
	C 陸上競技		14			
	D 水泳		0			※更衣室やプールサイド等での密集を避けることが難しい。水中での感染症対策についての情報が少ない。
	G ダンス		8			
1領域以上	E 球技	44	22	-22	50	※組み合ったり、対面したりする活動が多い。
	F 武道		0			
必修	H 体育理論	3	3	0	100	
必修	保健分野	18	18	0	100	
	合計時数	105	73	-32	70	

◎各学校の実態に応じた工夫例（学級数や施設、用具、指導体制に応じて）

・球技

※ゴール型として体育館でのバスケットボールを予定していたが、3密を避けることが困難なため、校庭でのサッカーに変更して実施する（校庭に複数のコートを準備し、コート内の人数を減らす等の工夫をしながら行う）

※接触を多く伴う試合部分は、映像資料等を活用しながら、ボールを持たないときの動きなどを座学として学習する

・体づくり運動やダンス

※ペアやグループでの活動をなくし、個の運動を中心に行う

・器械運動

※体育館でのマット運動を予定していたが、用具の消毒や活動中の3密を避けることが困難なため、校庭での鉄棒運動に変更して実施（こまめな鉄棒の消毒や生徒の手洗いを徹底する）

・武道

※柔道：礼法、受け身、体さばきなど相手と組み合わせなくてもできる活動を中心に行い、組み合わせ立ち技等の部分は、資料を活用し座学として学習する